

市民からの第3期鎌倉食育推進計画（案）へのご意見

No.	該当箇所	素案へのご意見	事務局から
1	全体	<p>市内の住宅地には、高齢者の独り暮らしの市民が増加しています。その方々が、健康で快適な暮らしを続けるためには、良好な食育の実践が基本です。その方々にこの計画を適用するには、たいへんな努力が必要だと拝察します。</p> <p>小生は妻と二人暮らしの高齢者ですが、企業退職後の十数年、「男の料理教室」に通った経験があります。残念ながら、先生がお亡くなりになり、その教室は、一部が別の先生に引き継がれていますが、かつての隆盛は影を潜めています。いずれにしろ、つたない経験に過ぎませんが、小生の場合、その経験を踏まえて、妻と手分け（小生は、朝食を担当し、一日の基本栄養が摂取できるよう、メニューを工夫）して取り組んでいます。</p> <p>いずれにしろ、高齢者の食育の実践の場を増やすことを市の計画に盛り込んでいただければと、希望します。</p>	<p>いただきましたご意見を踏まえ、計画内取組みの柱3「食でつなぐ地域づくり」（28ページ）の中に「食に関するボランティア団体」についてのコラムを追加いたします。</p> <p>また、計画を推進していく中で、現在すでにある高齢者の方が地域で食育を学ぶ場・実践する場を周知していくと共に、そのような場を増やしていただけるような働きかけを行ってまいります。</p>
2	取組みの柱2	<p>人と人とのコミュニケーションが減少、形骸化しつつある今日、食を通して人と人との「接点」を増やす催しを企画すれば良いと考えます。</p> <p>ただ、食には好みとかアレルギーとか衛生面とか人様々な要素を考慮しなければいけないので、一月に何回家族そろって食べたか、をスタンプラリーして商品・表彰する（保育園・学校・その他単位で）。</p> <p>シルバー人材に依頼し、食に関する歌や踊りを作ってもらい、市役所・支所にあるTV画面で繰り返し流し続ける。</p> <p>その他、インパクトのある催しを企画し活動を活発にしたらと思います。</p>	<p>これまでの計画では、一緒に食べることについて、「家庭や学校における共食（誰かと一緒に食べること）の推進」としていましたが、今回新たに「地域での共食の推進」を加えました。計画を推進していく際には、地域で共食ができる場の情報提供をすると共に、ご提案いただきましたような手法も検討しながら、インパクトのあるイベントを交えて啓発していきたいと考えています。</p>